

① 授業の基本情報（学部・学科、科目名、配当年次、履修者数、オンライン授業形態）

保健医療技術学部 理学療法学科

日常生活活動学実習

2年

73名

オンデマンド（12コマ）と対面（4コマ）の混合

② 教員の基本情報（氏名、所属）

鈴木 里砂 理学療法学科

③（可能なら）学生のコメント （15回目の授業感想でオンラインについて触れてい

そうな感想を抜粋しました）

・ADL実習の授業を通して、患者さんの日常生活で生じる動作障害やそれに対する理学療法士の介入について学習することができた。授業の中で「できるADL」BIと「しているADL」FIMによって食事、整容などの各動作に対して点数をつけ、各点数に対

する介助方法などを学ぶことで、自助具や日常生活用具について知り、使用する場面、方法について学ぶことができた。日常生活動作について、患者さんに対して BI や FIM で正しく評価することで日常生活での問題点や不便な点を見つけ改善していくことも理学療法士の役目なんだと感じた。そして、後半の授業で行った演習問題では、症例の文章から必要な情報を抜き出し、患者さんに対して評価を行うといったより実践に近い形での学習を行うことで知識を整理することができたと思う。また、15 回目の授業では動画を見ながら項目について評価するという形で実際に理学療法士と患者さんのやり取りや理学療法士の行動を確認することで、どのように患者さんと接するのかを確認することができた。

ADL 実習のなかで、患者さんに対する日常生活動作を評価して、その患者さんにあった自助具を使用したり、問題を改善したりする理学療法士の役目を学ぶことができた。

・車椅子の授業で、シーティング改善の画像から患者さんにあったクッションを選び、シーティングを改善することによって、患者さんの ADL が向上すると学びました。患者さんがより快適に車椅子で移動、生活出来るようにクッション選びのアドバイスや指導をしたいと思います。また、車椅子だけでなくその患者さんの不便に思っていることや ADL を低下させてる要因に注目して、要求されることに対処出来る理学療法士になるため、今後の学習に今回の学びを生かしたいです。

国試の問題にも多く触れられたので、得ることが多い授業でした。

感染対策をしっかりと行った上で実技授業ができ、理解が深まるように動画の多い講義にして下さり、ありがとうございました。"

・歩行補助具や車椅子について学びました。高齢者や疾患を患ってしまうと、これらに頼ることが多くなります。そこでPTは患者にどのような器具が良いのか勧めることがあります。歩行補助具や車椅子について学習したことで患者により適したものを選択できるようになったと思います。食事動作、摂食・嚥下、整容動作、更衣動作、入浴動作、トイレ動作・排泄の授業は、対面で行えず、体験することができませんでしたが、一部の授業では動画を見ながら真似てみることでどのように行えばよいのか理解することができました。症例に対するADLでは、症例情報を5分以内に読めるようにすることを学び、現在の知識では到底たどり着けないと痛感しました。脊髄損傷のADLでは、損傷レベルごとに使える筋が異なってくるので、対応したプッシュアップ動作が必要になることを学びました。

・授業を通して自助具を工夫すれば自分で作れることを知り、作り方も学んだ。前期では3Dプリンターを使ってのスプーンの柄を太くするものを作れることを知ったが、後期ではソックスエイドをファイルから実際自分で作ってみて不器用な自分でも

簡単にできて使えるものができたことに喜びを覚えた。また、症例を資料で自分で読んでみて、自分で評価をしてみたり、わかることを書き出してみたりすることによって今までの知識を整理できたのと同時に自分の未熟さや気づけない点、早く情報処理する力がないことなども知ることができた。この症例検討は今後実習に行くにあたって重要になってくると思うので何に気づけなかったか、何が自分が弱いのかももう一度確認したいと思う。そして、最後の移乗動作の動画を見ることによって疾患に対しての禁止肢位や移乗のやり方が違って一つ一つが学んだことがつながっているし、実践できなくてはならないと思った。今回はこのような状況だから、実践という形はやや少なくなってしまったが、逆にたくさん動画によって近く、回数を多くみられたことで細かい部分まで配慮できるようになったり、禁忌事項が分かったりしたのではないかと思う。ADLは患者にとってとても大切な項目であると思うからしっかり復習し、実践につなげていきたい。

④ 授業をオンライン化するにあたって心がけたこと（工夫点、苦勞）

- ・施設内で教員の実演を撮影し編集しながら動画で提示し実施の動作がイメージできるように工夫した。

- ・ 模擬患者（教員が実演）での移乗技術の成功・失敗例の動画撮影を行い、間違い探しをするような形式で動画内での学習を促した

- ・ シーティングなど座り方で座圧が変化するところを測定機器で撮影し目に見える形で提示した

- ・ You Tube 動画などを利用し、患者動画を多く使用し患者像のイメージがつきやすいよう工夫した。

- ・ 対面授業 3 コマの際は対面時の説明動画を後日配信し、復習ができるようにした。

- ・ 仮想症例を作成し、臨床でのカルテ情報を読み込んだり、書き出したりする練習を、オンデマンド動画の中でも時間を区切り実践的に実施できるように工夫した。

- ・ 学生負担を減らすため、クイズ形式（選択式）のものを多用した。

- ・ 4 年が卒業研究で 3 D プリンターを利用し作成した車椅子関連の自助具を提示し、先輩が作成したものを見ることで身近に自助具作成を感じさせられるようにした。

- ・ 配布プリントは事前配布し、学生のプリントアウトの負担を減らした。

⑤ 今後のオンライン授業に向けて

- ・ 質問しやすい環境作り：匿名で質問でき、質問を共有できるシステムを利用する。

・道具や装置を使用する授業は、対面授業が望ましいが、それが出来ない中でも、実際に操作感や臨場感が得られるように360度カメラを使用するなどの工夫をしていきたい。

⑥ 授業資料等 (PDF)

添付しました。(患者さんの動画などもありましたので大丈夫そうところのみ抜粋しました)